



新春をむかえて

編集部

「闘争」後編

文芸欄 短歌

黒住嘉輝

『京都の女性のあゆみ—史料と
年表でつづる国際婦人年から
二十年』を出版して 河音久子

京都学習協議会の誕生 いげた・りょうじ

京都学習協議会の誕生

いげた・りょうじ

京都労働者学習協議会が結成されたのは、一九六三年の六月二九日のことである。もとも京都にはそれより早くから労働者の学習活動が進んでいた。戦前では、一九二四年に日本労働総同盟京都連合会の手により、三条青年会館（現在のY.M.C.A.）で労働学校が開設され、校長が山本宣治、谷口善太郎が事務局長となつた。アジア太平洋戦争以後では、一九四六年六月に新村猛を学園長とした人文學園が設立され、「働く者に学問」をスローガンに活動していた。一九五二年には全国の労働者教育協会が創立され、五三年には『学習の友』が発刊されたが、京都でも、五三年九月に島恭彦京都大学教授を会長として京都労働者教育協会が設立された。その京都人文学園と京都労働者教育協会が合併して京都府・市のバックアップの下に設立されたのが、労働者学

園である。

安保と三井三池闘争の後、池田内閣の高度経済成長政策の下、労働組合運動に親米・反共・労資協調の動きが強まるなかで、労働組合の階級的民主的な強化を職場からささえるサークル活動が次第にひろがり、階級的観点を明確にし、労資協調主義を乗り越えるのにどうしたらよいかを考えるために意見交流や相互援助の組織が欲しいという要望がたかまつてきた。労働者学園は京都全体のすべての労働組合運動の学習の中心として大事な役割を果たしていたが、「学習の友」を中心とした職場学習のセンターが欲しいという声が大きくなつた。こうした要望に応えるために誕生したのが、京都労働者学習協議会であった。

京都民生会館で行われた結成総会で、細野武男先生（立命館大）を会長に、事務局長吉田保さん（機

関紙協会）、大学関係から木原正雄先生（京大）同志社大から私、労働組合関係から吉田平さん（自治労）山本正行さん（京教組）大久保新二郎さん（全自交）が副会長となり、おくれて藤井舒之さんが専従事務局員となり、一〇月五日、立命館大学と同志社大学の教室を借り短期の京都中央労働学校を開催することから活動が開始された。第一期労働学校は一八六名の生徒を結集、春闘にむけて、北上京、左京東山、中京、右京、下南、伏見、乙訓、福知山・舞鶴、宮津の各地に地域連絡会がつくられていった。

階級的立場と統一戦線の立場を明確にして、知識人と労働組合の活動家との協力の下に、労働者の自主的で大衆的な学習運動を发展させることを意図した。この意気込みは盛んだった。細野先生は京教組の教育運動に深くかかわっていたから、そこで蓄積された教育運動の経験と理論が学習運動の大切な培養土となつていた。どんな場合でも悠々迫らぬ細野先生の大人ぶりは多くの労働者に信頼され、かつて旭ヶ丘中学問題で活躍した山本正行さんはどの個性的な講義は若者の心

を揺さぶった。けれども、六四年の「四・一七問題」や労働組合の右傾化傾向のなかで、初めての手作りの学習運動の経験不足と力量不足もあり、運動は停滞気味になつた。専従が連絡に走るのも市電で時間がかかるので、バイクの運転に自動車学校に通つてもらい、中古のバイクに乗せて、どうやら連絡が早くなつたのもこの頃のことである。事務所も、川端の教育会館の機関紙協会の横に又借りた。そうした状態の中から講師活動に参加する学習活動家が育つていつた。

六七年富井清革新京都市長が誕生し、東京では美濃部革新統一都政・七一年大阪に黒田革新府政が誕生、沖縄返還にむけて全国的にも運動が前進した時期に、京都学習協の運動も大きく前進することとなつた。もちろん道は平坦ではなかつた。もちろん道は平坦ではなかつた。六八年一〇月には川端教育会館が全焼し、学習協は大切な拠点を失つた。この時、前年から事務局長に就任していた有田光雄さんの活躍はめざましく、禍を転じて福となすと活動家たちを励まし、文字通り攻勢的に運動

と体制の再建に奮闘した。新しい事務所と大学紛争で使えなくなつた大学のかわりの教室をさがすのに、京都市内を歩きまわつた。幸い現在の場所を見つけ、不足金を会員から融通してもらって契約し、二千名の労働者・知識人の力ンパで六九年四月に今日の「京都学習会館」を建設することができた。全国の仲間・そして蜷川民主府政の後ろ楯がその成功をささえた。運動も発展し、六九年の安保沖縄総運動は二万人を組織し、六月二一日の京都会館での大

学校も、一期七〇〇名という結集ぶりであった。一九六九年細野先生が立命館大学の総長になられたので、重沢俊郎先生を会長に選出し副会長に戸木田嘉久先生(立命館大)木又謙二さん(国労)を加えたのはその年の末のことであつた。その後約一〇年の間、羽織袴草履履きの重沢先生が着物の先生として親しまれ、若い労働者たちと肩をくんで団結頑張ろうを歌つていた姿が、今も懐かしく思い出される。

(井ヶ田良治・同志社大学名誉教授)

『京都の女性のあゆみ—史料と年表でつづる 国際婦人年から二十年』を出版して

河音 久子

この度、京都婦人のあゆみ研究会は『京都の女性のあゆみ—資料と年表でつづる 国際婦人年から二十年』を出版いたしました。一九七六年に刊行した『京都の婦人

のあゆみ—京都戦後婦人運動小史』に続く第二編です。

一九七二年、勧業館内京都市ギャラリーで「平塚らいてう展」が開かれましたが、この開催にあ

たつた実行委員会は実際に幅広い団体・個人によるもので、女性の輪の新しい広がりの契機となるものでした。この「らいてう展」の成果と反省のなかで「京都婦人のあゆみ研究会」が発足し、戦後京都の婦人運動の足跡をたどつてまとめた『京都の婦人のあゆみ』の発刊となりました。発刊後この研究会は役割を終えて解散いたしましたが、事務局を担当した何人かは、このまま解散してしまうのを残念に思い、その後もゆるやかな研究会を継続しておりました。私たちは先の本の編集にあたつて、戦後間もなくの時期の勤労婦人連盟の結成や、京都での国際婦人デーのはじまり、労働婦人・地域婦人を統一して結成された京都婦人協議会等々、当時の女性をめぐるいろいろな問題に対する精力的な活動を知つて非常に感銘をうけたものです。戦後直後の資料は非常に限られたものでしたから、私たちにはそのあたりの補強からまずやり始めようと、当時活動されていました人々から話を聞く作業をしばらく行いました。何人かの方々から戦前から戦後にかけての具体的な話を聞き、戦前からの活動や思

いが、戦後の新しい活動の底流となつていることを改めて確かめることができました。しかし、忙しい時間をさいて話を聞いていただいだにもかかわらず、残念ながらまだにそれらをまとめずにおります。暗中模索のうちに一〇年が経過しました。

前の本を編集したとき、資料の散逸をなげき、女性の運動の足跡をまとまつた形として残す必要性を感じていた私たちは、その後も女性運動にかかる資料を保存するよう心がけてきました。主に久米さんがその都度資料をダンボールの箱に保管する、また、井上さんが新聞記事の切り抜きをするという形で、蓄えてきた資料が一定の量に達した段階で、前の本の続きとしてまとめておこうでも記録としてまとめておこうではないか、そうしなければまた資料は散逸し、記憶も消失してしまふのではないかという思いで、研究会の活動を第二編作成の作業に集中することにいたしました。一九八五年の頃だと思います。

保存してある資料—案内状やビラ、報告書やニュース、新聞の切抜き、その他もろもろ—を手分

けしてまずカードにとり年表作成の作業を始めました。一九八八年、作成した簡単な年表の素案をそえて、主に国際婦人年京都連絡会に参加している団体・個人に一九七五年以後の活動についてのアンケートを行いました。回収はあまりかんばしくありませんでした。が、回収されたアンケートや各団体・個人から借用した資料、またこの間出されたいくつかの労組の女性部史、女性団体の写真集や年史、個々の運動の報告集、京都民報縮刷版などを繰る作業を重ねてカードの補充・修正を行い、再度各団体・個人に点検をしてもらいながら、ワープロに入れた年表の改訂は一〇回を超えるました。同じ事項でも資料によつてくいちがいがあることがあります。各々別々にカードをとつて、確かめられるかぎり他の資料で確認し、出典を明記して記載しました。パソコンなどの効率よい機器が普及している現在、私たちは全く手工業的なやりかたで、気の遠くなるほどの煩瑣な作業に埋没しました。

年表が大方まとまりかけた頃、記述の部分をどうするか何回も話し合いました。各々の運動にかかわった人々に原稿を執筆していただく、あるいは集まつてもらつて当時のことについて話し合つて、ただく、いろいろな形を想定いたしましたが、集まつた資料をみていますと、資料が実に生々しく當時の状況・問題を語つてくれることに気がづきます。一九七五年の国際婦人年に際しては、「婦人年ニュース」を九号も発行していますが、一つ一つの記事は感動的ですが、その勢いに圧倒されます。思ひ出を語るよりも、あるいは編集者がへたに記述し直すよりも、資料をそのままのせることがずっと真実を伝えることができると思いました。直接かかわってこれらの人々に書いていただいた原稿ももちろんあります。基本的に団体ニュース、報告集や団体の記録などの記述のなか歴史的証言として転載する形をとりました。

女性の運動にとつては敗戦から国際婦人年までの三〇年間はまさに激動の時代でしたが、その後の二〇年もやはり大きな変革の時代だったと思います。国際婦人年世界会議で採択されたメキシコ宣言・世界行動計画は、平等・発展・平和をテーマに、女性の解放の道すじを総合的に示し、私たち女性に大きな希望と展望を与える歴史的な画期的なものでした。男女平等の国際的、国内的な大きな流れは建て前としては定着したといえます。しかしこの二〇年間は、女性保護規定の縮小とだきあわせに成立した男女雇用機会均等法、消費税の導入と税率のアップ、高校制度の三原則つぶし、「京都の教育」の変質、湾岸戦争を契機として自衛隊の海外派兵のはじまり等々、新たな課題を生み、これら諸問題に対して京都の女性たちは実にさまざまな活動を開いたしました。

女性の諸問題にアプローチする方法は多様です。大きなとくみから小さなとくみまで様々です。みなそれなりに価値があることはいうまでもありません。そのようななかで、私たちは国際婦人年京都連絡会に結集した女性たちのとりくみに焦点をおいて、その様々な活動を記録することを心がけました。できるだけ多くの資料を収録したいと思ったため大部のものとなつてしましましたが、それでも見落としているものがある

のではないかと気になります。

協力いただいた多くの団体・個

人の方々に感謝しつつ、この本が

今後の運動に生かされることを期

待しています。(なお、この本につ

いての問い合わせは、左記の研究会のメンバーまで。かわね・ひさ

こ・京都婦人のあゆみ研究会)

〒607-8143

京都市山科区東野南井上町
12-21

井上とし方
河音久子方

TEL・FAX

075-581-7685

〒617-0816

長岡市西の京14-14

河音久子方

TEL・FAX

075-954-0335

〒604-0847

京都市中京区烏丸二条下ル
ヒロセビル2階 久米弘子方

TEL075-256-3320

FAX075-256-2198

販価

書籍小包料 五二〇円(一冊)

団体割引

五冊以上 一冊七〇〇円
(送料別)

郵便振替

(口座名) 京都婦人のあゆみ研究会 00950-6-87947

闘

争

後編

田中 豊藏

五、石山の疎開工場で

昭和二〇（一九四五）年になると、大阪の大工場や鉄工所は、片端から爆撃にあいました。

大阪、三国の昌運工業所も滋賀県石山に工場を移しました。中村組の主人と支配人と共に

「田中君、大型プレナ・シカルバンを組立ててくれるか」と言います。長さは三三尺、重量は一七屯あります。石山工場では五屯の荷物より積込みができません。

「田中君の力で組立ててくれませんか」とたのまれる。

「道具は五屯のジャッキと、大箱五、六個パンギニ三〇丁あればなんとかできましよう」

三日目には兵庫の武庫川の久保田鉄工所から石山工場に運搬して

きます。もう夕方の五時すぎでした。運送してきたものは私の友人の組頭でした。向うも心配しております。

天井クレーンは五屯しかいません。「困ったなあ」と思案しています。

私は、

「心配ご無用、下ろしましよう。前の機械に大箱で受け、真ん中にバングを積んで受けて天ピニにします。後の部分を五屯のジャッキと天井クレーンで車を出せるだけ出してつり上げて早く車を出してしまえばよいのです」

「ほう…、なるほど…」

皆で私の提案どうりやりました。

「親方、早く車を出して…」

「どうとう三三尺の旋盤がすわりました。」

工場長をはじめ重役さんは、はらはらして見ておりましたが、私

がすぐ箱バンギで受けとめ、中央をバンギで天ピニにして、もたらことを感心して見ていました。

安心しました。大阪の久保田鐵工所の役員や運送を請負った親方も「ご苦労様でした」と感謝しました。

工場の工具も新米ばかりで、

「このようない型機械をどのようにしておろすのか」とかたずをのんで見守っていました。

大阪の親方も、

「ご苦労やつたなあ、少ないけど」といつて、金五円をくださいました。私は頭を下げてお礼をいいました。

中村組の支配人も「ご苦労様でした。一人でどうなることやとひやひやしていたが…、よくやつてくれました」

と言つてくれました。そして、

「田中君、家に帰つたら皆で食べてください」

と、米一升、ねぎと白菜、肉百匁をくれました。みなヤミ物ばかりです。私は喜んで「いただきます」

と、その好意を受けました。

工場長からも、「今大阪に通信したら、主人も喜んでおられた。

明日は組立ての方をよろしく

金大中キンテイジョン

短歌

黒住 嘉輝

燎原文芸

東京のホテルより二五年前拉致されし金大中國賓となり訪日するたび「有難うございました」という装置電池切れか今朝はあります。

証拠隠滅作戦遂行中の防衛庁テボドンは日本上空を飛ぶ

アメリカの介入にて一命をとりとめし金大中右足を少し引きずる

拉致事件拷問死刑判決をも乗り越えて来て金大中もすでに老いしと思ふ

と、たのまれました。

私は明日の打ち合わせをしてお礼を言い、工場から家に帰りました。父母、弟妹、子どもらで白米を炊いて食べたら、「何十年ぶりや」と、子どもたちも喜びました。

私は今日一日、よい親孝行ができたなあと、父母に二円、家内に一円、あとの二円は会社の天井クレーンの工員に一円、あとの一円は、明日手を貸してくれる工員にバットを買う一円と決めました。タバコ屋の主人が工員に来ており、その人にたのんで分けてもらいました。

一、四二歳で陸軍に召集

私は大津石山工場で一世一代の大坂久保田鉄工所武庫川工場のシカルバン、長さ三三尺・重さ一七屯の組立てを行い、金尺で調節をしました。そして今後、立派に運転ができるよう据付作業を終了し、久保田鉄工所の工場長や副長もこれを試運転し、「よし、これでよし」と、責任を果たすことができました。

妻は私に、「軍人家族の補助は絶対にもらってくれるな」と強く申します。それはなぜかと申しますと、「私、つまり田中が、長い間労働運動をし戦争に反対して来ていながら、国からそんなものをも

さて、それから一〇日すぎて、舞鶴海軍工廠が重要な機械を山の中の隧道（トンネル）の奥に入れ、アメリカB29重爆撃機の攻撃から逃れるためにトンネル掘りをしていましたが、京都の右京区鳴滝常盤町から植木屋の職人たちが

三〇人ほど、徴用されてこの仕事をしておりました。私もその所へ徴用で働くことになりました。これがまた大変な生活ぶりで、私は毎日毎日虱（シラミ）に攻められ、毎夜、虱とりを行いました。

それが二か月ほどありましたが、伏見の野砲隊から私に召集令状が届きました。私は四二歳です。来るものが来たという感じでした。それが二か月ほどありました。

私の戦争反対の長年の姿勢を貫くことと、国家から扶助金をもらうのは矛盾する。私が戦争反対の運動を労働組合運動とともにやっていたので、私の家はそれが看板になつていて、妻はこの反戦・平和の看板にキズがつく、それはわが家の恥だというように思つてくれていたのです。それで、「自分はどうなことをしても働いて、恥ずかしくない生活をする」という

昭和一九（一九四四）年五月一

二日のことです。私は京都市下京区中殿田町の軍人会から送られ、伏見深草第二二聯隊に入営しました。

らつたら家の恥になる」というのです。そして、「自分は、お父さんが兵隊にとられている間はできるだけのことをして家の生活はたてるから、くれぐれも軍人家族補助をうけないで……」と、強く申します。

私は、「金もない。老人をかかえをしておりました。私もその所へ徴用で働くことになりました。これはまた大変な生活ぶりで、私は毎日毎日虱（シラミ）に攻められ、毎夜、虱とりを行いました。妻がくれぐれもそれを強く言うので大変嬉しく思いました。

私の戦争反対の長年の姿勢を貫くことと、国家から扶助金をもらうのは矛盾する。私が戦争反対の運動を労働組合運動とともにやつていたので、私の家はそれが看板になつていて、妻はこの反戦・平和の看板にキズがつく、それはわが家の恥だというように思つてくれていたのです。それで、「自分はどうなことをしても働いて、恥ずかしくない生活をする」という

ことを言葉少なに言つてくれたのです。私は今まで長い間労働運動をやって来て、やはりやりがいがあったと嬉しく思いました。私は妻の手をにぎつて、「そうか……、わ

いながら、國からそんなものをも

しました。

伏見の野砲隊からは、海外出兵のなか内地勤務なのかは連絡していません。私は、「どうせ、どこへ行かされるか分からない」自分は四二歳にもなつて召集令状が来たのだから、日本も兵隊不足で外の人も年配のものまでかり出しています。

野砲隊には大砲もなく、迫撃砲が少しあるだけでした。若狭（福井）の鯖江の聯隊に見習に行つている兵隊と、紀州（和歌山）の潮岬に上陸してくると思われるアメリカ兵に立ち向かうために、山中に塹壕を掘り毎日山中訓練を行つてている部隊がありました。これに

は船に乗れない日本海軍の水兵があり、山の中で土方をし、芋や大根、白菜、ネギなどを作る自給自足の兵隊です。それでも「無敵の艦隊兵」と言つていました。

私も、この紀州の潮岬の方にまわされ、先ほどのとおり塹壕掘りと農業をやっておりました。近所の農民の方々は、「兵隊さん、この分では……収穫までには作られますか」とたずねられました。

た。

山の中のお寺に兵隊が五〇人ほど世話になり、食糧をまかなつていたのです。朝、米を炊き、朝食、昼食の弁当を持たせ、また夜の食事を作るのですが、米不足で小豆や大豆を五分五分に入れ飯を炊いております。

私が年齢をへておりますので、まかないの長をしており、釜の飯のコゲができるとこれを取り、みんなに配つてやります。食糧不足がどうにもなりません。

このあたりの農村も男は徵用や兵隊の召集で大半は不在、女の方や子どもが田圃で働いております。女の方は、私が四二歳で年をとつた兵隊で、家に食べ盛りの三人の子ども、父母、妻の大家族を養つていることに同情してくれます。

「兵隊さん、ガンバつてください。日本の戦争も、これはだいぶ難しいですね」と、たずねます。「かわいそうに。家では嫁さんが苦労しておられることでしょう」と、自分の身に引き比べて泣いてくれる人もありました。

「山中の訓練はきびしく、「無敵の軍隊」もさっぱりです。

私たちは、近所の農民の方にお願いしてタマネギ、ジャガイモ、カボチャなどをもらい、ごちやだきにしてバケツ二杯に入れ、これ

を山中に運びます。「腹がへつては戦ができぬ、じや」と、みんな腹をすかしているものですから兵

隊たちは大喜び。この喜びを農民へ伝えるために山をあります。農民は同情してバケツの野菜を差し入れてくれます。

ある日、一人の兵隊が山中の間道を通つてバケツ二杯のおかずを竹ざおへかついで歩いていました。もう一步というところで、見習士官に見つけられ、つかまつてしましました。「田中ともう一人の兵隊を呼んでこい」と、命令が来ました。

私は、その兵隊とつれだつて山中へ壕に見習士官を訪ねました。そして、私は「みんな腹がへつて仕事ができません。早く壕を掘つて敵にそなえるためにやつたことがあります。申しわけありませんでした。今後は絶対にいたしません」と、あやまりました。

すると見習士官は、「普通だったら軍法会議にまわされるところだが、敵の攻撃に備えるために早

くやろうとしてやつたことだから今は許す。今後は気をつけよ!」と、許してくれたのです。私も兵隊もやれやれと言つて喜びました。

常は、めつたに来たことのない見習士官に見つけられたのです。

「自分が悪いのです。自分がしばかれるか、みんながハラハラして見ておりましたが、私が

（故湯浅貞夫氏の整理された原稿は、今回から「後編」となっていますので、前回とくいちがいましたが、そのままにしました。編集部）

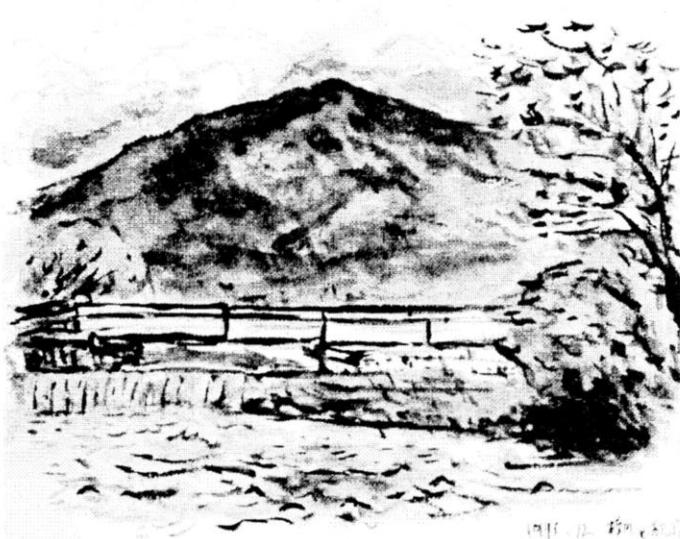
です。自分がわざかなことで罪に

なるのは残念です」と、言いました。

「ようし、この度は見ぬことにし

てやるからいつそ軍務に勤めよ」と、いうことで一件落着になりました。

（故湯浅貞夫氏の整理された原稿は、今回から「後編」となっていますが、そのままにしました。編集部）



新春をむかえて

由「主義史觀」を名乗る集団が戦後日本人の近現代史理解を「自虐史観」だと攻撃して、南京大虐殺と従軍慰安婦を抹殺しようとして、い

皆さまのご健勝と当会へのさらなるご援助を念じて、ごあいさついたします。

ま小林よしのりという漫画家の
「新ゴーマニズム宣言 戦争論」

一九九九年一月

「燎原」編集部一同

世紀のかわり目がヒタヒタと足音をたてて近づいてくるような思いがします。世間には世紀末といふことばがふさわしいほど、いやな事件がつぎつぎにおこった一年

これから一世紀の間に二度にわたる世界大戦があり、内外の死傷者をはじめ大きなぎせいの上に、今日にいたつたわけです。いわゆる「抑止力」といわれる核兵器に取

がベストセラーとなり、東条英機を礼賛する映画「プライド」が各地で上映されました。過去一世紀の歴史から何を学ぶのかが問われているといえるでしょう。

をつけると、汚職と殺傷事件の出ない日はまずありません。金融不祥事・底知れぬ不況・リストラ・政界の腐敗等、ほんとうにうんざりさせられます。そのようななかで若い人たちのかつてない就職難も伝えられました。

ないという物騒な現実に直面しているのが今日の世界です。その世界と日本の接点に日米ガイドライン問題が浮上しました。この情勢をどう切り抜けて二一世紀につなげるのか、今を生きているわれわれの大きな課題でしょう。

もちろん、歴史の歯車がまつた
く逆転したわけではありません。
昨年の参議院選挙の結果は私たち
を勇気づけるものでした。一見か
わりなく不愉快な現象の底に、力
強いマグマがたくわえられていく
思いです。このマグマが地上に現
われ出るときに、二〇世紀の歴史

一〇〇年前、世界列強は植民地獲得にむけて帝国主義の道をひた走りにあゆんでいました。日本も遅れじと日露戦争と大陸侵略の準備に余念がなかつた時期です。そ

最近の世相を見ると、あたかも第二次大戦前夜を思わせるものがあります。日米ガイドライン改訂は、さしつけめ日独伊三国同盟にあたるといえそうです。数年来、「自

われ出るときに、二〇世紀の歴史的経験が生かされなければならぬと信じます。私たち「京都の民主運動史を語る会」も、ささやかながらそのために役立ちたいと願している次第です。

会および会報については、左記へご連絡ください。

〔事務局〕

〒六〇五一〇九五三
京都市東山区今熊野
南日吉町三九 奥村和郎
TEL FAX ○七五—五六一一七四八五